東北育種場

岩手県内には多数の合板工場、集成材工場が稼働し、県産のカラマツを大量に利用しています。材価も堅調で、造林意欲も旺盛で、新植面積の約８割をカラマツが占めています。

このため、苗木生産に必要な種子を十分に確保するため、種子生産量の年変動が大きいカラマツの着花促進技術の開発に取り組んでいます。

また、東日本大震災の津波で被災した海岸防災林の復旧に使用する抵抗性クロマツ苗木を供給する必要があります。

このため、東北地方で唯一抵抗性クロマツ採種園を有する宮城県や関係機関と協力して、研究プロジェクトにより人工交配、薬品処理による種子増産や挿し木苗木の生産技術開発、不定胚による苗木の増殖等種子・苗木の確保に取り組んでいます。

26年度は、カラマツ種子で25年度の約４倍の60kg、抵抗性クロマツ種子についても昨年より多い約６kgを生産確保しました。

エリートツリーについては、25年度スギ９個体を初めて開発しました。

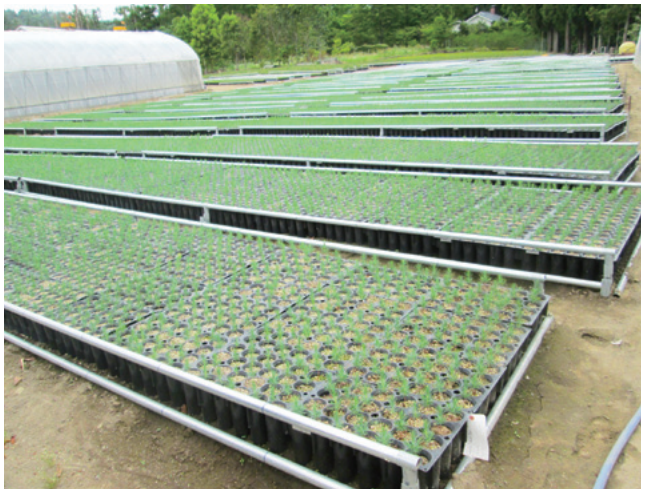
平成30年度までに１００個体程度を開発し、林業の低コスト化に貢献できるように取り組んでいます。

仙台若林区荒浜国有林に植栽されたクロマツ抵抗性苗木
（26年6月）

ジベレリン処理によるカラマツ着花促進

カラマツの雄花、雌花

樹高３mに成長したスギエリートツリー候補木
（24年春植付、26年10月）



コンテナによるクロマツ抵抗性苗木生産
（26年6月、26年3月播種）